

# 令和8年度 東大和市立第二中学校 学校経営方針

東大和市立第二中学校長 大島 清和

## 誰もが輝く学校 ウェルビーイングの充実を目指して

「東大和市総合計画 輝きプラン」を踏まえ、これからの社会をたくましく生き抜き活躍する生徒の育成を目指すため、生徒、教員、保護者、地域が連携協働し、あらゆる教育活動に対して主体的に臨み、創造的な思考力・判断力を存分に生かしながら有効な行動・実践を図り、ウェルビーイングの向上のために教育活動を推進する。

### 1 目指す姿

#### (1) 目指す学校像

- 一視同仁(だれかれの差別なく、すべての人と平等に接していく)
  - ・「善は急げ」の精神のもと、前例にとらわれない教育活動を推進する学校
  - ・すべての学校関係者が、本校に「誇り、安心、期待」がもてる温かい学校
  - ・コミュニティ・スクールを活かし、地域に開かれた、教育環境整備を推進する学校

#### (2) 目指す生徒像

- 学ぶことが楽しい
  - ・お互いを尊重できる人間性豊かな生徒
  - ・自ら進んで自己実現に向かって学び続けようとする生徒
  - ・心身ともに健康で、生きがいをもち自立できる生徒

#### (3) 目指す教員像

- 教えることが楽しい
  - ・共感する姿勢をもち、生徒に優しさ、感動を与えられる教員
  - ・指導力向上を目指し、学び続け、創意ある教育活動に意欲的な教員
  - ・教員にやりがいを感じながら、自らの生活も大切にできる教員

### 2 学校教育目標

- ・豊かな心を養い思いやりのある人になろう
- ・広く深く学習し創造性豊かな人になろう
- ・丈夫なからだをつくり明朗な人になろう
- ・情報活用能力を身につけた国際人になろう

### 3 本年度の学校経営方針の重点

- 個性や能力を生かす「わかる授業」「興味・関心のわく授業」の実現に努める。
  - ① 教員の授業力(ファシリテーション)を高め、主体的、対話的で深い学びを充実する。
  - ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力を育成する。
  - ③ 総合的な学習の時間を充実させ、「将来に生きる」授業の実践を徹底する。
- 学級活動や生徒会活動を主軸とした特別活動を充実させ、生徒の自主性や意欲を高め自発的な実践等を助長しながら、自尊感情や自己有用感の高揚、リーダーシップやフォロワーシップといった姿勢・態度の育成、人間関係構築力やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- 「特別な教科 道徳」では、規範意識の醸成に注力した望ましい生活習慣の確立、インクルーシブ教育やダイバーシティ教育の理念に基づいた他者を受け入れる態度の育成、道徳的判断力や実践力の伸長を目指し、「誰もが過ごしやすい温かい学校」の恒常化を図る。

- 1人1台タブレット端末を日常的に活用し、「一斉授業」「個別授業」「協働学習」を充実させ、より一層の主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図る。また様々な情報を主体的に選択・処理・活用する能力の育成を図り、情報モラルを高めるよう指導する。
- 教員の働き方改革については、教員のウェルビーイングの向上、ライフ・エンゲージメントの高揚を目指し、従来の取組の改善を図りながら推進する。また、自らのキャリアを見据えながらリスキルやリカレント(生涯教育)の視点も取り入れ、OJTをより一層充実させる。
- コミュニティスクールを確実に運用し、地域や外部関係者等との連携、協働等を推進する。

#### 4 具体的内容と方策

##### (1) 学力の定着・伸長

主体的に見通しをもって粘り強く取り組む態度の育成を優先課題とし、以下実践を徹底する。

- すべての学習活動(導入、展開、終末)において、「ねらいに返す」ことに留意する。
- ファシリテーターを意識した指導を確立し、スモールステップ、タブレット端末の活用など、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
- 「参加→習得→活用→探究」という学習プロセスを大切にした単元、授業を展開する。特に、交流学习や言語活動を中心に、各単元で「活用」「探究」といった学習活動を設定する。
- 「デジタルとリアルの最適な組合せ」に留意しながら、タブレット端末を効果的に活用する。
- 生徒が、「わかった」「できた」といった達成感や成就感を得られる、工夫した授業を実践する。併せて、生徒の自信や誇りの醸成も図る。
- 学習カードの利用など、自己評価及び相互評価の活用を工夫する。
- 総合的な学習の時間、特にSDGsに係る学習を軸として、課題を発見及び解決する力や探究心や、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 全国学力・学習状況調査、都学力向上を図るための調査において、選択した項目における平均値が東京都平均と同等、また上回ることを具体的な目標とする。

##### (2) 健康維持、体力の向上

- 授業、学校行事等においてふり返り等の場面を与え、体を動かすことの楽しさ、喜びを体得する機会を設ける。
- 保健体育科の授業等をきっかけとし、運動習慣が身に付くようアプローチする。
- 部活動や特別活動などをとおして、生涯運動に親しもうとする態度を育成する。
- 定期健康診断等、自らの健康について考える機会を設ける。
- 生徒が生涯を通じて健全な食生活の実現、食文化の継承、食の安全、フードロス、健康の確保等が図れるよう、家庭科や総合的な学習の時間、生徒会活動等と関連づけながら、食に関する様々な知識と食を選択する判断力を身に付けられるよう指導する。合わせて食物アレルギーや熱中症の事故防止に努める。

##### (3) 人権尊重の精神を基調とした教育活動の推進

- 全教職員が共通理解の下、情報交換を密にして、生徒に寄り添い、生徒の内面に対する理解に努め、生徒の健やかな成長を促し、心身ともに健康を保てる予防的な生活指導に努める。
- いじめを未然に防止するという強い決意をもち、生徒一人一人を丁寧に観察しながら、相談しやすい体制や雰囲気を作る。また、生命を尊重する精神と責任ある言動を身に付けさせ、生徒が自らを大切にしようとする態度を育成する。
- 道徳の授業では「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るとともに、評価の在り方を工夫する。また、道徳授業において、一部を学年内ローテーションで指導を行う。
- 学校行事は儀式的、体育的、文化的行事等を通して、より良い人間関係を築く力、公共の精神と社会性、自尊心や自己有用感の醸成を図る。
- 言葉遣い、教室・廊下の美化、生徒ロッカーの整理整頓、掲示物の工夫を励行し、学校生活における基本的

な生活習慣の定着を徹底させ、落ち着いた学校生活の基盤とする。

- 道徳の授業や SDGs に係る学習、またダイバーシティ教育の理念に基づく活動をとおして、LGBTQ への理解を深め、多様性を受け入れられる温かい態度を育成する。

#### (4) 特別支援教育の充実

- 中学校特別支援教室拠点校としての利点を生かし、ステップ教室の教員の助言等を参考にしながら、インクルーシブ教育の理念の下、すべての教員が生徒の状況を適切に把握し、具体的な支援が実践できるようにする。また、特別支援教育全般に関して理解を深める。
- 週 1 回、教育相談委員会を実施し、情報交換、情報共有、ケース会議などを行い、特別に支援を必要とする生徒の具体的な支援を検討、実践する。
- 校内サポートルーム「うえるびー」、SC や外部機関、外部人材を活用し、教育相談活動の充実を図りながら、組織的、計画的に不登校生徒等を支援する。

#### (5) キャリア教育の充実

- 勤労体験学習、職業調べ学習、地域人材等を活用した出前授業等の実践など様々な体験的な学習活動をとおして、望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、自らの特性や資質等を理解しながら卒業後の進路を主体的に選択できるよう系統的に進路指導を行う。
- キャリアパスポートを効果的に活用して、小学校における学習経験を踏まえながら、生徒一人一人が自らの将来に見通しがもてるよう、3 年間の学習活動を計画、実践する。
- 就職支援ナビゲーターを講師として召喚し、ソーシャルスキルトレーニング等を組み入れながら自尊感情、自己有用感を高め、すべての生徒が将来に希望をもてるようにする。
- 総合的な学習の時間を中核とし、持続可能な社会の創り手を育成する教育活動を推進する。

#### (6) 特別活動の充実

- きめ細やかな指導を計画、実施し、生徒が安心して自らを成長させることができるようにする。併せて目標ややりがいを見失った不登校生徒が新たに生じないようにする。学級経営また学級活動の充実に努める。
- 主に特別活動において、生徒の自主性や積極性、意欲を高め、自発的な実践等を促す。併せて、リーダーシップやフォロワーといった姿勢・態度の育成、人間関係構築力やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- 生徒会活動の活性化を図り、生徒自身が考え、計画し、実行できる機会を設ける。
- 部活動については、その効果や成果を鑑み、意図的・計画的に実施する。また地域移行を見据え、保護者や、地域と連携・協働したシステム構築を推進する。

#### (7) 特色ある活動の継続・発展

本校生徒が「井の中の蛙大海を知らず」にならぬよう、対外的な様々な体験活動や参加型体験活動の情報発信を推進する。またゲストティーチャーの召喚により視野を広げ、グローバル社会に対応できる生徒の育成を図る。

- 令和 8 年度「助産師と連携した性教育の授業」実施校として、3 年生を対象に、助産婦を講師としてを召喚し、主任養護教諭と連携しながら、生徒の健康的な生活の向上を目指す。
- 当該教育の一環として、各学年で体験的な学習を実施する。
  - 第 1 学年 自然体験学習(宿泊学習、秩父方面、10 月)
  - 第 2 学年 校外学習(2 月)、勤労体験学習(10 月)
  - 第 3 学年 修学旅行(宿泊学習、関西〔京都・奈良〕方面、9 月)
- 第 2 学年勤労体験については、コミュニティ・スクールの利点を生かし、地域人材の活用、アウトソーシングを継続し、夏季休業時の個別課題実施等を検討し、実践をする
- 体育大会、合唱コンクールを二大行事と捉え、外部専門講師や団体等を召喚し、教職員と生徒が「運動すること」「歌うこと」を「楽しみ」「喜び」として共感できる行事として確立し、校内の「スポーツ文化」と「文化力」の向上を推進する。
- 教育課題の解決を図る「自分で知り、自分に生かす」実践を計画的・意図的に実施する。
  - がん予防(2 年:校医による講演)、食育(全校:「食育の日」の実践)

SOS の出し方（1年：ビデオ視聴学習）、主権者教育、金融教育（3年：社会科）

防災（全校：避難訓練・安全指導）、SNS等（全校：セーフティ教室・安全指導）

○SDGsに係る取組の一環として、登校時の服装等について、各自の判断で服装を選択できるようにする。生徒自身が考える機会を設け、今後の本校のスタンダードを確立する。

○制服（紺のブレザー、グレーのズボンまたはスカートを儀式等で身に付けるフォーマルな服とする）を設定し、市販のものも可とする。通常の授業日は着用を義務づけない。

○ユニバーサルデザイン化を基本とした上で、授業以外でのICT機器活用、施設・設備の工夫・改善等、職員のアイディアを随時取り入れる。

#### **(8) 家庭・地域との協働・連携**

○コミュニティスクールについて、第二小学校CSと接続しながら確実に運用する。また、組織や体制等を確立させるため、学校運営協議会を年6回、拡大協議会を年1回、その他必要な会議を適宜開催し、推進・充実を図る。

○小中一貫教育を推進し、二中グループとしての連携を強化する。一部組織を改編し、実施内容も精査の上、取組の工夫・改善を図る。

○教育活動に関する発信や地域協働活動等について、ウェブサイトを活用するなど、工夫・改善を図る。

○生徒や教員が地域の活動等に参加し、地域の一員としての意識を高める。

#### **(9) 教員の資質・能力の醸成**

○すべての教員が、OJTの推進、研修等の積極的な受講等をとおして、常に研究、研鑽に励み、資質・能力を醸成させようとする。

○すべての教員が自らのキャリアについて主体的に捉え、リカレントやリスクルの視点を持ちながら考えることができるよう、相談等の場を適切に設ける。

○意図的、組織的、計画的にOJTを実施しながら、ミドルリーダーを確実に育成し、組織の醸成を図る。

○「服務事故を起こさない」「いつでも報告・相談できる」という職場の雰囲気確立する。そのために、日頃の教員相互の声掛け、また定期的な研修等を実施する。特に、生活指導においては威力(体罰や暴言、不適切な指導)によらない、教員の魅力による指導を推進する。

○教員のウェルビーイングの向上のため、働き方改革をさらに推進する。また、月の時間外勤務30h以内を目標として、「時間短縮」をキーワードに「ICT活用推進」「ペーパーレス化・書式A4・A3化・ワンペーパー化(書式簡略化)」等、様々な手立てを講じていく。

○定時退勤日を月2回設定する(設定日が無くなることを目標とする)設定日に定期退勤ができないことが予想される場合は、個別に同月の他の日に変更することを認める。

○年次有給休暇の取得率80%を取得する。

○部活動については今後の地域移行を踏まえ、段階的に地域連携・協働といった持続可能なスタイルを推進していく。